

非 实用介護事典

Haruki Miyoshi

文：三好春樹


Masahiko ISHIHARA

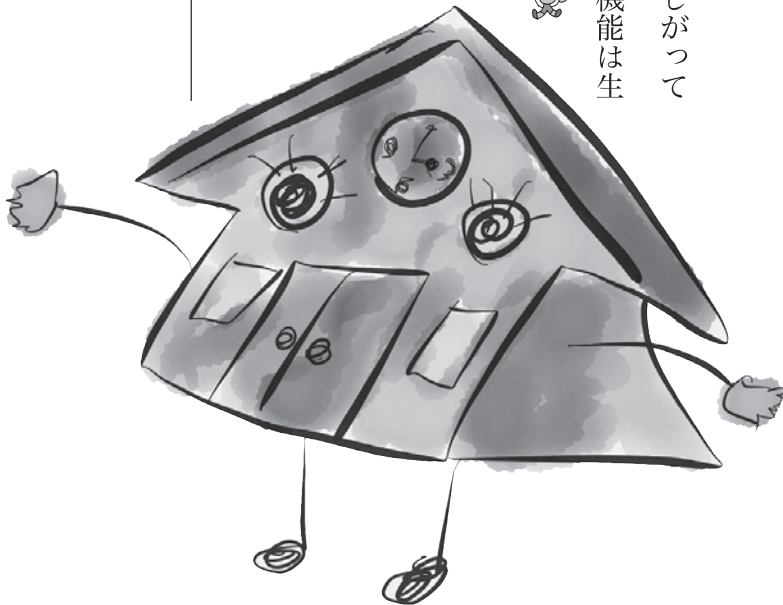
イラスト：石原雅彦

31

慢性期

私たちは「慢性期」とは言わない。だって急性期に比べると地味でカッコ悪い。代わりに「生活期」と呼ぶことにした。マヒした手足や物忘れと共にその人らしく暮らすことを応援する時期だからだ。

リハビリ界では「維持期」と言い換えて新しがつてるけど、それは機能しか見ていない表現だ。機能は生活の中で生かされてはじめて維持できるのだ。



Illustration：北陸富山で暮らしていた妻の両親から突然連絡が途絶え、自宅に電話しても誰もおらず、何かあったに違いないと帰省したら義父が倒れ義母は病院に付き添っていた。突然身体が動かさず睨すら開けられなくなり、ギランバレーとかフィッシャーマンとか聞いたことのない病名があがり、それでも確定せず地方の病院を転々とし、やっとパーキンソン病だということになってリハビリと治療が始まったらメキメキ回復して驚いた。好きな自転車に乗って驚かせるまでになったので、今がチャンスと夫婦揃って娘夫婦の元へ上京した。それから数年一緒に暮らしたのち、パーキンソン病が急激に悪化して在宅介護の数年間に入った。あの元気に回復して普通の暮らしに復帰できた期間がなかったら、どうなっていたらうねと時々思い出す。